

能登 いまい農場だより 3月中旬号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。

田んぼの雪解けが進み、地面が顔を出し始めました。越冬していた白鳥が、北帰行を前に田んぼの餌を啄んでいます。春の気配を感じるようになりました。

皆様、いかがお過ごしですか。

■大阪梅田、阪神百貨店で、販促しました。

20年以上にわたり、生産者の顔が見える商品、常時店頭で、販売してもらっている、当農場が栽培した「有機米・能登こしひかり」生鮮食料品が強い阪神百貨店では、一般的に、産地・生産者は4・5年で変わっています。と言われる中、お米の中で、いまや、1・2位を争う古株の部類に入っています。

梅田の阪神百貨店が改装中で手狭ということもあり、なかなか、阪神百貨店での販促が出来なかったのですが、この3月10日(土)終日店頭に立ってきました。地下1階の食品売場の一角に、ブースを作ってください、「JAS有機米こしひかり」(無農薬・有機栽培米)の白米・玄米と、「香ばし米つぶ」(有機米こしひかりの煎ったもの)の試食(試飲)販売をおこないました。当日は百貨店からの要請もあり、お客様と間違われぬような服装で、ということもあり、「能登の里山里海世界農業遺産」の法被を着て、頭は三角巾とエプロン、に店から借用したヘアキャップの出で立ち(写真)。

用意していた、「香ばし米つぶ」は20個であったため、完売しました。立ちっぱなしで疲れましたが、お客様と接する機会を設けていただいた阪神百貨店には感謝です。



■春作業が始まっています

私の地域では、春先に農道の砂利敷きや、水路の泥上げ、農道・水路のゴミ拾いなど、集落総出で行う慣例になっています。しかし主要水路はそれですむのですが、大部分は個々の耕作者が近くの水路の泥上げなどをおこないます。写真は山から流れ出た砂がU字溝を半分以上埋めつくし、自分で上げています。その距離1カ所で80メートルぐらいになる場合も。育苗に使う山土なども乾燥させ、ふるいにかけています。あぜ塗り作業はトラクターにアタッチメントを付け行うのですが田んぼの土の水分の状況を見て行います。



■おいで祭り(平国祭)

羽咋市にある能登一宮け たたいしゃ気多大社の祭り、神馬や御輿、長柄鎌、騎馬神職などの行列が、羽咋市、鹿島郡、七尾市など、2市2町を巡行する祭りで18日から23日までの7日間にわたって行

われます。その昔、大国主大神が邪神を追い払い、邑知平野を平定したという故事から、毎年この春先に行われています。能登では「寒さも気多のおいでまで」といわれ、神が民衆の中においでになり、一体となる春祭りです。この祭りを境に、農作業が一気に忙しくなります。

小田中の^{しらくしやまみおやじんじや}白久志山御祖神社もこの巡行の順路に入っていて、近くの福田区の福俵を小田中区長が神社前で受取、気多大社の神様に奉納して祭りが行われます。

伝えによると、小田中に免田といわれる(田んぼの地名)福田の飛び地があり、そこにいくつかの沼地があったそうです。そこには大蛇が棲んでおり、毎年、年頃の娘を人身御供としていました。ある年、その順番になった家の人困り果て、小田中の神社にお参りして、お願いしたところ、気多大社の大国主大神に伝わり、大国主大神が大蛇を戸隠においやったことから、お礼として、毎年お米を奉納することになったとか。

米俵といっても、祭りに使われるのは、3升(1升は1.5Kg)の米俵です。福田区の人たちは、この福俵を伝承するため大変苦労していると聞きます。床の間に飾れば、結構引き立ちます。